



1. 大丸の象徴「孔雀のレリーフ」(中央玄関)
2. 1階ホール。復元されたヴォーリズ天井
3. 1階エレベータホール
4. 7階屋上庭園。奥に水晶塔を見る。



日建連表彰2021



第62回BCS賞

# 大丸心齋橋店本館

## 選定理由

【選考委員】  
竹内徹・堀部安嗣・大西正修

御堂筋といえば商都大阪の目貫き通りであり、関西に興った企業にはこの通り沿いに店を構えることを夢として事業に勤しんできたところも多い。大丸心齋橋店本館の建築主である大丸は、江戸時代に京都で呉服屋を起業した創業者が満を持して一七二六年に現在の心齋橋に店を構えて以来、約三〇〇年にわたりこの地で商売を行ってきた。戦前の一九三三年にはW・M・ヴォーリズの設計により重厚な御堂筋側のファサードを持つ大丸ブロックが完成し、以来九〇年近く大阪を代表する百貨店として長く親しまれてきた。しかしながらこの百貨店事業も近年のインターネットの普及に伴う事業環境の変化によって、ブランド店の導入やフラッグシップビルドとしての内部空間のフレキシビリティ

を確保したより広い平面計画への更新が求められるようになった。この地を売り払い、新たな事業地を求めて新規店舗を展開する道もあるなかで、建築主の選択はあくまでもこの創業地を守り抜き、長く親しまれた御堂筋の景観を維持することであった。

これに対する設計者の提案は、隣接する建物敷地と一体化した再開発による総床面積の拡張と新たな平面モジュールの再構成を行いながら、併せて御堂筋側の景観を構成するヴォーリズ設計のファサードをそのまま保存することであった。従来であればこのような建物保存を伴う再開発には中間層を含む免震構造が利用されることが多い。しかし基礎免震を導入するには建物周辺の敷地に余裕がなく、中間層免震を導入した際のエレベーターやエスカレーター周りのエキスパンション・ジョイントの納まりは売り場空間のイ

水晶塔を含めて損傷することなく切断し、新規構造に置き換える工事は大変難易度が高く、高度で丁寧な施工があつてはじめて実現したものである。内装もエントランス層で一部復原し、元の素材を生かしながら拡張した柱スパンに適合させ、創建時の雰囲気再現している。

インテリアを損なう危険性があつた。そこで設計者が選んだ手法は、内部架構を大スパンの鉄骨造に置き換えて、御堂筋側のファサードを原状のまま三段に切断してこれを滑り支承で支え、新しい平面を構成する鉄骨架構に取り付けて安定させる方法である。地震時には鉄骨造架構の水平変形に対し剛性の高いファサードは切断面でスライドし、損傷することなく追従することができ、当然ながら繊細な石材細工やスクラッチタイルで覆われたファサードを、特徴ある建物角部の

建築主の想いと設計者、施工者の努力が結実することにより、歴史と新しいプログラムの両立が高い品質で達成されたものであり、BCS賞にふさわしい作品と評価した。

### 大丸心齋橋店本館 概要

- 所在地 大阪府大阪市中央区心齋橋筋1-7-1
- 建築主 大丸松坂屋百貨店
- 設計者 日建設計、(株)竹中工務店
- 施工者 (株)竹中工務店
- 竣工日 2019年9月20日

- 敷地面積 10,755.72㎡
- 建築面積 5,631.51㎡
- 延床面積 66,367.87㎡

- 階数 地上11階、地下3階、塔屋1階
- 構造 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは  
左記のQRコードからWebページに  
アクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2021 第62回BCS賞受賞作品》 有明体操競技場/大宮区役所・大宮図書館/軽井沢風越学園/The Okura Tokyo/大倉集古館/渋谷ストリーム/昭和電工(大分県立)武道スポーツセンター/大丸心齋橋店本館/高崎芸術劇場/知立の寺子屋/日本橋室町三井タワー/日本橋スマートエネルギープロジェクト/東大阪市文化創造館/福田美術館/松原市民松原図書館「読書の森」/ミュージアムタワー京橋/ミラion(長崎県立長崎図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館)

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2021年で62回を数えました。